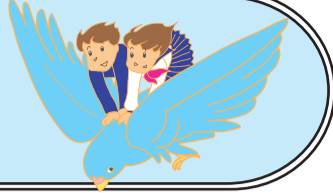


君とつばさ



平成26年7月15日
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2 6 1
 (電話)03(3556)0771
 (HP) http://www.kotsuji.com

©交通遺児育英会



海外語学研修でアメリカに出発する高奨生への説明会が6月末、研修生24人と保護者が出席して都内で開かれた。土肥寿員常務理事が、

研修で英語力を磨き、異文化に触れる、大きなチャンスを生かして欲しい」と、参加者を激励。次いで担当者、渡航中、日本の保護者と連絡し合

わなない、小遣いは少なめに、などと、研修の趣旨に沿った心構えを持つよう求めた。昨年の研修を体験した先輩学生2人が質疑応答

に加わり、夏休みの宿題は出発前に終わらせておく、ホームステイ先の家族への手土産には、「日本の遊び道具やお茶などが喜ばれる」などとアドバイスした。

語学研修生、来週米国へ

説明会 ホームステイに思いはせ

新奨学生332人採用

奨学生数の推移

単位:人、()内は各年度新奨学生数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
高校・高専	548 (172)	523 (135)	487 (115)	446 (133)	424 (106)
大学・短大	667 (163)	711 (188)	715 (162)	677 (144)	659 (154)
専修・各種	185 (79)	199 (72)	185 (66)	182 (77)	173 (62)
大学院	26 (7)	29 (10)	26 (8)	28 (12)	26 (10)
計	1,426 (421)	1,462 (405)	1,413 (351)	1,333 (366)	1,282 (332)

この結果、2年生以上の継続採用者を含めた奨学生の総数は、高校407人、高専・専攻科17人、大学613人、大学院26人、専修学校169人、各種学校4人の計1228人で、前年同期に比べ

今年度、新たに奨学生に採用されたのは、高校105人、高専1人、大学136人、短大18人、専修学校61人、各種学校1人、大学院10人。前年同期に比べ、高校・高専が27人減、大学・短大が10人増、専修・各種が15人減、大学院が2人減となっている。

交通遺児育英会は、奨学生予約者の中で今春進学した332人を正式に採用し、6月2日、本人と進学先の学校へ通知した。

総数 1282人 に 26年度

て51人減となった。交通事故、死亡事故が漸減傾向にあり、遺児数も減りつつあると見られること、高校生を対象とする政府の「就学支援金制度」が、今年度からさらに拡充されたことなどが奨学生漸減傾向の要因と見られる。

交通遺児育英会は6月4日、第10回通常理事会を開き、平成25年度事業報告と決算報告を承認した。

25年度事業・決算報告を承認

他方、事故負傷者数、重度後遺障害者数は高水準が続いており、遺児家庭の窮状は変わらないとみて、育英会は支援強化策を検討している。

庭の窮状は変わらないとみて、育英会は支援強化策を検討している。

奨学生募集中

上回った。

返還が1年を超えて滞っている滞納者は、25年度末で2850人で、前年度を600人以上減少し、過去5年間で最少となった。また、5年を超える滞納は、戸別訪問や督促などにより、380件を解消させた。

激闘の1か月。この紙面が届くころには、ワールドカップの勝者が決まっているはず。決勝トーナメント進出を果たせなかった長友選手が、うなだれてピッチに座り込む姿が、既視感を誘う。06年ドイツ大会で敗退したとき、中田選手が芝生に大の字に寝ころんで、しばらく虚空を見つめた。二人には、自分だけの時間が流れているように見えた。日々、ちっぽけな敗北を味わい続ける身にも、濃密さはけた違いでも、虚脱感はなく伝わってきた。幼少期に世話になった子守の女性と、三十数年ぶりに念願の再会を果たして、太宰治は、「胸中に一つも思ふことがなかった……全く無憂無慮の情態」(『津軽』)と記す。明暗は逆でも、両選手の胸中に通じる、無だるうか、心塾東京寮のスポーツフェスティバルが行われた。梅雨どきの休日、ひっそりした中学校の体育館に歓声がこだまする。手作り運動会とはいえ、競技となれば熱狂する。昼食時は、車座になって談笑しながら弁当をほおぼる。塾生も、身の丈に応じた勝者の高揚と敗者の悔しさをかみしめた。激闘の1日。

現役就活生を励ます先輩座談会(6月、都内で)



4人の先輩は、就活では「自分の資質を見つめて、企業に情熱を売り込む」姿勢が大切と語り、就活進行形の奨学生に、「自信を持つて、自分をアピールするよう、励ましのメッセージを贈った。」(座談会特集2面、関連記事3面に)

就活生を応援 先輩が座談会

来春の卒業生たちの就職活動が、いまピークを迎えている。交通遺児育英会は6月、就活を成功させて社会人として働く先輩に集まってもらい、奨学生を励ます「就活生応援 OB・OG座談会 いま社会人として」を行った。

「待ちぼうけ」



アクリル・ボード

多摩美術大学 4年
松原 智子

【決算報告】
 収益は、円安による財産運用益と大口遺贈による寄付金が大きく寄与して6億6800万円。費用は、事業費4億6800万円と管理費8800万円の5億5600万円で、当期正味財産増減額は1億1200万円の黒字となった。
 この増減額は、前年度比で2500万円減少、予算差異でプラス1億800万円となった。

お断り 2面「高校生の声」休みました。

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として

助成を受け作成されたものです。



